

WAKATE NOH

若手能

第三十二回 能楽若手研究会 大阪公演

32ND WAKATE NOH

令和6年1月20日(土)

13時始め(正午開場) / 於 大槻能楽堂

観世流 大蔵流 喜多流
能 狂言 能

葵上 栗焼 忠度

上野雄介 小西玲央 高林昌司



第三十二回 能楽若手研究会 大阪公演

令和6年1月20日(土) 13時始め / 正午開場

■ チケット料金 自由席

前売り券	当日券	学生券
3,200円	3,500円	1,700円※

※メール又はフォームのみ申し込み可。

チケット発売日 令和5年10月1日(日) 10:00~

■ チケット予約フォーム

osaka@wakatenoh.com

※こちらのアドレスに住所、氏名、電話番号、チケット枚数を入力いただき、ご予約願います。ご予約を承り次第、ご返信させていただきます。

若手能実行委員会 TEL. 090-4365-2422



■ チケット取扱所

- ローソンチケット <https://l-tike.com/> Lコード: 55646
※ローソンおよびミニストップ店内 Loppi 直接購入可能
- e+(イープラス) <https://eplus.jp>
- チケットぴあ <https://t.pia.jp>
- 国立文楽劇場 大阪市中央区日本橋1-12-10 ※窓口販売のみ
- 大槻能楽堂事務局 <https://noh-kyogen.com/ticket>
TEL. 06-6761-8055
※窓口・電話受付時間: 11時~16時 不定休
- 若手能実行委員会 TEL. 090-4365-2422 (電話窓口のみ)
※対応に時間がかかる場合がございます
- 国立能楽堂 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-18-1 ※窓口販売のみ



◆ 若手能 事前講座開催

令和6年1月20日(土)

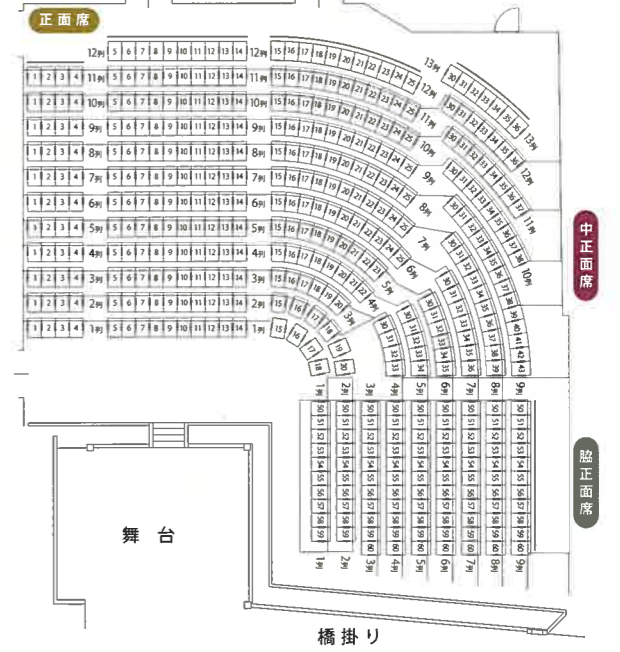
開場11:00 / 開演11:30 参加料500円 ※当日精算
本公演で主役を務める役者が演目を分かりやすく解説いたします。
なお、ご参加いただいた方は、本公演の座席を指定する事ができます。
講座終了後に係の者がご案内いたします。是非ご参加くださいませ。

↓お問い合わせ
若手能実行委員会 TEL. 090-4365-2422

各SNS
最新情報は
こちらから



〈大槻能楽堂 座席表 総席数: 448席〉



〈大槻能楽堂へのアクセス〉 大阪市中央区上町A-7



- 大阪外口谷町線・中央線「谷町四丁目」駅下車。
⑩号出口を出て南へ約300m(⑩号出口にエレベーターあり)
- 大阪外口谷町線・長堀鶴見緑地線「谷町六丁目」駅下車。
⑦号出口を出て北へ約350m(⑦号出口にエレベーターあり)
- 大阪シティバス「国立病院大阪医療センター」バス停下車、南へすぐ。
*「大阪駅前」から62系統「住吉車庫前」行き乗車。
*「あべの橋(天王寺公園前)」から62系統「大阪駅前」行き乗車。
※大槻能楽堂に駐車場・駐輪場はございません。ご来場の際は公共交通機関をご利用ください。

お能を楽しみ、若手と共に学ぶ場所

大阪若手能による能楽体験の催しです。謡・お囃子・狂言などのお稽古体験や、観能のための講座だけでなく、普段見えない楽屋仕事や装束の着附の体験もごさいます。
若手能楽師が考える「面白そう!楽しそう!」を詰め込んだ秘密基地でお能と一緒に学んでみませんか?



主催: (独)日本芸術文化振興会 国立能楽堂 後援: 大阪市 大阪市教育委員会 / 大阪府 大阪府教育委員会

●お問い合わせ
大槻能楽堂 TEL. 06-6761-8055 国立能楽堂 TEL. 03-3423-1331(代) 大阪若手能実行委員会 TEL. 090-4365-2422
※11:00~16:00 不定休 ※対応に時間がかかる場合がございます

第三十二回 能楽若手研究会 大阪公演 於 大槻能楽堂

喜多流 能 13:00

TAN DAN NORI

須磨浦の老人
平忠度の霊 高林 昌司

忠 度

旅僧 喜多 雅人
大鼓 山本 哲也
小鼓 成田 奏
笛 貞光 智宣
須磨の浦人 善竹 隆平

●喜多流 能「忠度」

平安歌人藤原俊成に仕えた者たちが、主君亡きあと出家し須磨を訪れる。そこへ老翁が歩みより一本の桜のもとに足を止める。宿を借りたい旨伝えると、老翁はこの桜こそ至上の宿といひ、一首の歌を口ずさむ。「ゆきくれてこのしたかけをやとせば はなやこよひのあるじならまし」。俊成の弟子にして二ノ谷の合戦で落命した平忠度の辞世の句であり、この桜は彼を弔うためのものだった。供養を求めつつ老翁は自分こそが忠度とほめかし姿を消す。

夜を迎えた僧たちの夢枕に、忠度の霊が再び現れる。「千載集」に自身の歌が載るも、朝敵の身ゆえ（読み人知らず）とされた悲しみを述べる。都落ち途上に引き返して俊成に歌を託したことを語り、辞世の句をしたためた矢を挿して戦った最期の戦闘を再現する。夜明けとともに俊成ゆかりのあなたたちと話したかったのだと、さらなる回向を頼みつつ消えていった。

美しさ、儚さ、勇猛さ、悲しさ、曲のうちにくぐりながら詰まった本曲。難易度の高い曲ですが、精一杯挑戦したいと思います。

文責・高林昌司

大蔵流 狂言 14:20

KURRYANKI

栗 焼

太郎冠者 小西 玲央
主人 上吉川 徹
後見 善竹 隆平

●大蔵流 狂言「栗焼」

太郎冠者は、貫い物の四十個の栗を焼くように主人から命じられる。切れ目を入れるのを忘れて焼ねさせたり、焦がしそうになりたりするが、どうにか全ての栗を焼き終り皮を剥く。しかし焼き上がった栗があまりに見事な為、何かと理由をつけてひとつまたひとつと食べてしまい遂には全て平らげてしまう。困った太郎冠者は、主人に「三十六人の龜の神親子に栗を進上してしまつた」と言い訳をするが…。

休憩二十分

理屈を付けながら食べてしまう太郎冠者の気持ちや珍妙な言い訳に共感と笑いが誘われます。

栗を焼き始めてから食べ終わるまでの独演が非常に特徴的な演目で、目の前で栗が跳ねたり転がっている情景がはつきりと見えるよう、全神経を集中させて舞台に臨みます。

文責・小西玲央

観世流 能 15:10

MOINOURE

巫女 笠田 祐樹
六条御息所ノ怨霊 上野 雄介

葵 上

横川ノ小聖 福王 和幸
臣下 中村 宜成
大鼓 山本 寿弥
小鼓 上田 敦史
大鼓 中田 一葉
笛 齊藤 敦

●観世流 能「葵上」

光源氏の正妻となつた左大臣の娘・葵上は最近、物の怪に悩まされていました。物の怪の正体を知るべく院の臣下(ワキツレ)が照日の巫女(ツレ)に口寄せをさせていると、二人の女性(シテ)が現れます。彼女はかつて葵上に辱めを受けた六条御息所の生霊だと明かし、自らの抱える辛い思いを吐露し始めます。そうする内に感情の高ぶる御息所は葵上を責め苛むと、彼女を冥土へ連れ去ろうと言ひ出します。臣下は急いで横川の小型(ワキ)を招き、怨霊退治の祈祷を始めます。するとそこへ鬼女の姿となつた御息所の生霊が現れ、なおも葵上を害しようとしします。

しかし鬼女は小聖の法力の前に力尽き、再び現れないと誓いを告げ、心とらぎ成仏を遂げたのでした。タイトルである葵上は役として舞台には登場せず、舞台先に一枚の小袖を出す事で寝込んでいる様子を表現しています。六条御息所の抑えきれない感情や、横川の小型との戦いの場面など見どころが沢山ありますので皆様に伝わるよう、全力で演じたいと思います。

文責・上野雄介

臣下ノ下人 善竹 隆司

後見 上田 宜照
梅若雄一郎 山田 薫
地謡 山本 麗晃 齊藤 信輔
上野 朝義 上田 顕崇 上田 拓司

上野 朝彦 林本 大

附祝言

（午後四時半頃 終了予定）